

# Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server 3.6

カスタマイズのガイドライン

2022 年 8 月 23 日

# 目次

変更履歴 .....	5
1 はじめに .....	6
1.1 カスタマイズに影響する Cisco Meeting Server 3.6 の新機能または変更点 .....	7
1.2 ブランディングファイルを管理する方法 .....	8
1.3 ブランド化できるもの .....	8
1.4 Web サーバ要件 .....	9
1.5 このガイドの使用 .....	9
2 Cisco Meeting Server Web アプリのカスタマイズ .....	10
2.1 ファイルのプロパティと名前 .....	14
2.1.1 サインインページの背景画像、アイコン、ロゴ .....	15
2.1.2 text_strings.json ファイルのパラメータ .....	15
2.2 カスタマイズ手順の概要（Web サーバでホストされるブランディング） .....	17
3 通話のカスタマイズ .....	18
3.1 IVR メッセージのカスタマイズ .....	18
3.1.1 カスタマイズする IVR メッセージ .....	18
3.1.2 IVR メッセージの録音フォーマット .....	19
3.1.3 IVR 背景画像のプロパティ .....	19
3.1.4 カスタマイズ手順の概要（Web サーバでホストされるブランディング） .....	19
3.2 SIP/Lync 通話メッセージのカスタマイズ .....	20
3.2.1 カスタマイズする音声メッセージ .....	20
3.2.2 音声メッセージの録音フォーマット .....	26
3.2.3 背景画像のプロパティ .....	27
3.2.4 カスタマイズ手順の概要（Web サーバでホストされるブランディング） .....	28
3.2.5 欠落しているファイルと無効なファイル .....	29

4	招待状テキストのカスタマイズ	31
4.1	Cisco Meeting Server Web アプリのカスタム電子メール招待状	31
4.1.1	Web アプリ招待状テンプレートの種類	31
4.2	招待状テンプレート テキスト ファイルの作成	33
4.2.1	新しいシンタックスで作成されるカスタム電子メール招待状の内容	34
	ヘッダー	34
	フォーマット	34
	変数	35
	ループ (Loops)	38
	条件 (Conditions)	38
	論理演算	39
	関数	39
	空白制御	41
4.2.2	招待状テンプレートの例	41
4.3	Web Bridge 3 を使用した Web アプリのカスタマイズ手順 (Web サーバ でホストされるブランディング) の概要	43
5	ローカルでホストされるブランディングの導入	44
5.1	Web アプリのカスタマイズ	44
5.2	IVR メッセージ、SIP/Lync 通話メッセージ、および招待状テキストの カスタマイズ	45
5.3	カスタマイズされた invitation_template*.txt のテスト	47
5.4	ローカルでホストされているブランディングファイルの削除	47
6	API を使用したリモートブランディングの導入	48
6.1	Web サーバの設定	48
6.2	ブランディングのための API の使用	51
6.2.1	Web アプリへのブランディングの適用	52

6.2.2 SIP 通話および/またはカスタマイズされた招待状への ブランディングの適用	53
6.2.3 IVR へのブランディングの適用	54
7 ブランディング手法の切り替え	56
7.1 Web サーバ（またはデフォルト）のブランディングからローカルでホストされる ブランディングへの変更	56
7.2 ローカルでホストされるブランディングから Web サーバブランディング への変更	57
7.3 ローカルホストと Web サーバカスタイズの混在	57
7.4 ローカルでホストされるブランディングを使用する場合の制限事項	58
8 SIP 通話の標準画面レイアウトにロゴを追加する	59
Cisco の法的情報	62
Cisco の商標	63

図 :

---

図 1 : Meeting Server を網羅したガイドの概要	7
図 2 : Web アプリの資産	11
図 3 : Web アプリの資産の zip ファイルの作成	15
図 4 : text_strings.json の内容の例	16
図 5 : Meeting Server Web インターフェイスを介した API へのアクセス	51

## 変更履歴

日付	変更点
2022年8月23日	3.6の新しいバージョン
2022年4月20日	3.5の新しいバージョン
2021年12月15日	3.4の新しいバージョン
2021年8月24日	3.3の新しいバージョン。
2021年5月25日	Cisco Meeting Server Web アプリのカスタマイズが更新され、brand_tag_line パラメータに関する注記が追加されました。
2021年4月9日	3.2の新しいバージョン。
2021年2月4日	Cisco Meeting Server Web アプリのカスタマイズが後進され、サインインページの背景画像の推奨仕様が追加されました。
2020年11月30日	3.1の新しいバージョン。
2020年7月29日	3.0の新しいバージョン。  Cisco Meeting Server Web アプリのカスタマイズ/ブランディングが導入されました。WebRTC アプリのサポートが削除されました。

# 1 はじめに

Cisco Meeting Server ソフトウェアは、シスコ ユニファイド コンピューティング サーバー (UCS) 技術に基づく特定のサーバー、または仕様に基づく VM サーバーでホストできます。本書では、Cisco Meeting Server を Meeting Server と呼びます。

---

**注：** Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.0 以降では、X シリーズサーバをサポートしません。

---

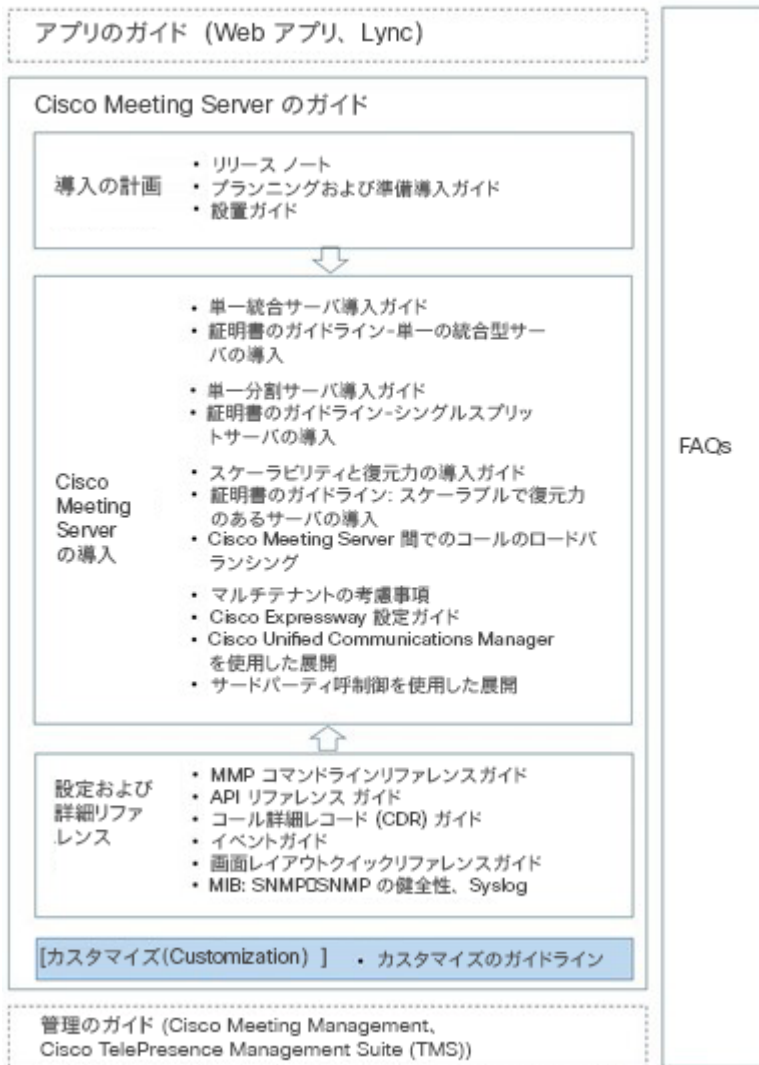
**注：** WebRTC 用 Cisco ミーティング アプリケーション (Web Bridge 2) は、Cisco Meeting Server version 3.0 から削除されています。ソフトウェアバージョン 3.0 以降を使用する場合は、WebRTC 用 Cisco ミーティング アプリケーションの代わりに、Cisco Meeting Server Web アプリケーションを使用する必要があります。そのためには、Web Bridge 3 を展開する必要があります。Web Bridge 3 の展開と設定の詳細については、[3.0 以降の『導入ガイド』](#)を参照してください。

---

このドキュメントでは、Meeting Server ソフトウェアのリリース 3.6 をカスタマイズするための機能について説明します。これらの機能により、音声プロンプト、背景画像とロゴ、招待状に表示されるテキストを変更できます。

これは、適切な導入ガイドに続きます (図 1 を参照)。

図 1 : Meeting Server を網羅したガイドの概要



## 1.1 カスタマイズに影響する Cisco Meeting Server 3.6 の新機能 または変更点

バージョン 3.6 から、会議で参加者の画面にロゴを表示するように Cisco Meeting Server を設定できます。管理者は、ロゴファイルをアップロードして、標準レイアウトの特定の位置に表示されるように設定できます。標準のビデオレイアウトにロゴを追加するために、新しい変数 `logoFileName` と `logoPosition` が導入されました。

## 1.2 ブランディングファイルを管理する方法

ブランディングファイルを管理するには、次の 2 つのオプションがあります。

- Meeting Server 上で、1 セットのブランディングファイルをローカルで保存します。
- ブランディングファイルをリモート Web サーバに保存します。

[Web サーバの要件を参照してください。](#)

## 1.3 ブランド化できるもの

Web サーバを使用してブランディングファイルを保存する場合は、以下のリストをブランド化できます。ローカルでホストされるブランディングを選択した場合は、適用される制限について [セクション 7.4](#) を参照してください。

Meeting Server 上でホストされるミーティングの参加体験の側面にはブランディングできるものがあり、それらは次のとおりです。

- サインイン背景イメージの Web アプリ、サインインロゴ、サインインロゴアイコンの下のテキスト、ブラウザタブのテキスト
- IVR メッセージ
- SIP および Lync の参加者のスプラッシュ画面イメージと、すべての音声プロンプトまたはメッセージ
- ミーティングへの招待メールのテキスト。

1 つのリソースセット（Web アプリの 1 つのサインインページ、1 組の音声プロンプト、1 つの招待テキスト）だけを指定した単一ブランドを適用する場合、それらのリソースはデプロイ内のすべてのスペース、IVR、および Web Bridge に使用されます。複数のブランディングでは、異なるスペース、IVR、および Web Bridge に異なるリソースを使用できます。リソースは、API を使用してシステム、テナント、スペース、IVR のレベルで割り当てることができます。



## 1.4 Web サーバ要件

リモートブランディングを使用する場合は、.wav、jpg、png、またはアーカイブ (zip など) ファイルを保存できる Web サーバ上のディレクトリが必要です。Web サーバは、Call Bridge から到達可能である必要があり、Call Bridge が任意の形式の HTTP 認証を実行することを要求してはなりません。Web サーバの設定の詳細については、セクションを参照してください。

インポートは、Call Bridge がカスタマイズされたファイルを最初に使用する必要があるときに発生します。

---

**注：**テナントごとに 1 つなど、複数のブランディングが必要な場合は、ブランディングごとに個別の Web ブリッジを展開する必要があります。それぞれ、VM サーバ上のスタンドアロン Web ブリッジにすることができます。

---

## 1.5 このガイドの使用

**第 2 章**では、Web アプリのブランド化について説明します。Web アプリでブランド化できる要素について詳しく説明し、ブランド化でアプリをカスタマイズする方法について説明します。

**第 3 章**では、SIP エンドポイントまたは Lync を使用して、参加者が IVR にダイヤルするとき、またはスペースに直接ダイヤルするときに表示および再生される画像とメッセージのブランド化について説明します。

**第 4 章**では、通話またはスペースへの参加を招待する参加者に送信される招待状に表示されるテキストのカスタマイズについて説明します。

**第 5 章**では、ローカルでホストされるブランディングファイルからカスタマイズを導入する手順について説明します。

**第 6 章**では、API を使用して通話をカスタマイズするステップバイステップの手順を説明します。

**第 7 章**では、ブランド化の 1 つの方法から別の方法に切り替える手順と制限について説明します。

---

**注：**特に明記されていない限り、すべての情報は Web サーバのブランディングとローカルでホストされるブランディングに適用されます。

---

## 2 Cisco Meeting Server Web アプリのカスタマイズ

バージョン 3.0 から、Cisco Meeting Server Web アプリケーションのサインインページのカスタマイズとブランディングができます。

---

**注：**以前の WebRTC 用 Cisco ミーティング アプリケーションのブランディング zip ファイルを使用することはできません。Web アプリケーション専用の新しいブランディング zip ファイルを作成して展開する必要があります。ただし、ブランディング zip ファイルは、従来の WebRTC アプリケーションと同じ方法で Web アプリケーション用に展開されます。  
(resourceArchive は webBridgeProfiles API の下に移動されたことに注意してください)。

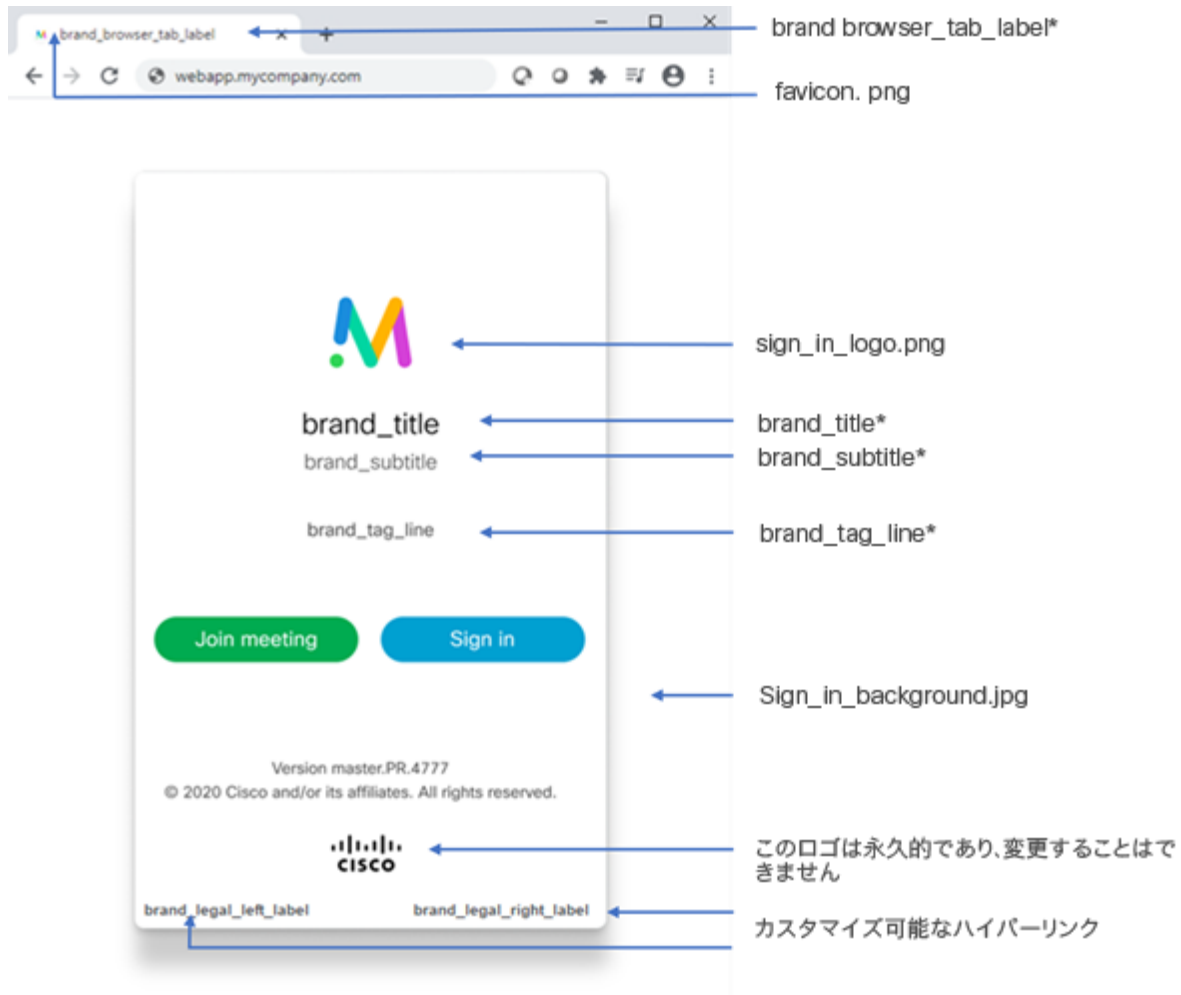
---

API を使用して、Web アプリケーションの以下の要素をカスタマイズできます。

- ブラウザタブの横、およびブックマーク/ショートカットに表示されるアイコン
- ブラウザタブのテキスト
- サインインの背景画像
- サインイン ダイアログ ボックス：表示されるロゴ
- サインイン ダイアログ ボックス：ロゴの下のテキスト
- カスタムハイパーリンク

図 2 に、これらの要素の配置と場所を示します。

図 2 : Web アプリケーションのアセット



\* これらの文字列はすべて単一の `single_text_strings.json` ファイルに格納されます (表 1 を参照)。

表 1 に、図 2 に示されている Web アプリケーションをカスタマイズするためにアップロードできるファイルと、推奨サイズを示します。

**注：**すべてのファイルを、指定されたファイル形式 (.png、.jpg、.json など) で指定する必要があります。すべてのファイル名で大文字と小文字が区別されます。また、表 1 で使用されているファイルの命名規則に従う必要があります。

バージョン 3.1 から、Web アプリのユーザインターフェイスは 21 の言語でローカライズされます。Web アプリのユーザインターフェイスのデフォルトの言語は、ブラウザのデフォルトに基づきます。Web アプリのユーザが別の言語を選択する場合、アプリにサインインする前か、会議に参加する前に、その言語を選択できます。Web アプリのユーザが優先言語を選択する方法の詳細については、「Cisco Meeting Server 3.1 (以降) Web アプリの重要な情報」を参照してください。

この新しい機能をサポートするために、Cisco Meeting Server に、表 1 で説明されている「text\_strings\_xx\_XX.json」という新しい Web アプリアセットが追加されました。これらの言語はソフトウェアの一部であり、特定の言語ファイルをカスタマイズする場合を除き、特別な設定は不要です。特定の言語ファイルが存在しない場合、Meeting Server はデフォルトで text\_strings.json ファイルを使用します。

表 1 : Web アプリケーションのアセットの説明と仕様

ファイル名	説明	最大ファイルサイズ	推奨されるサイズ、形式、縦横比
favicon.png	ブラウザ タブのラベルの横、およびブックマーク/ショートカットに表示されるアイコン	128 KB	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 推奨される解像度：16 X 16 ピクセルまたは 32 X 32 ピクセル</li> <li>- 推奨される縦横比：1:1（正方形）</li> </ul>
sign_in_logo.png	ランディング ページ、スプラッシュ 画面、およびユーザ ポータルに表示されるロゴ	250 KB	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 推奨される解像度：128 X 128 ピクセル  </li> <li>- 推奨される縦横比：可能であれば 1:1（正方形）  </li> <li>- その他の推奨事項：透過的な背景</li> </ul>
sign_in_background.jpg	ランディング ページに表示される背景	500 KB	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 推奨される解像度：1920 X 1080 ピクセル</li> <li>- 推奨される縦横比：可能であれば 16:9</li> </ul>
text_strings.json	<p>上書き可能なテキスト文字列で構成される JSON 形式のファイル。サポートされる文字列：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- brand_title : メインブランド名  </li> <li>- brand_subtitle : 下に表示する 2 番目のテキスト</li> <li>- brand_title brand_tag_line : 下に表示する 3 番目のテキスト</li> <li>- brand_subtitle</li> <li>brand_browser_tab_label : ブラウザのタブの名前</li> </ul>	16 KB	<p>推奨される長さ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- brand_title : 最大 24 文字（1 行に表示）、または最大 48 文字（2 行に表示）。</li> <li>- brand_subtitle : 最大 24 文字（1 行に表示）、または最大 48 文字（2 行に表示）。</li> <li>- brand_tag_line : 最大 100 文字  </li> <li>- brand_browser_tab_label : 最大 64 文字</li> </ul>

ファイル名	説明	最大ファイルサイズ	推奨されるサイズ、形式、縦横比
text_strings_xx_XX.json (バージョン 3.1 より)	<p>特定の言語のテキスト文字列。たとえば、「text_strings_fr_CA.json」は、フランス語で Web アプリのユーザインターフェイスを提供します。</p> <p>text_strings.json と同じものをサポートします。</p> <p>この形式で定義されたテキスト文字列は、指定された言語の「text_strings.json」で指定されている文字列をオーバーライドします。</p> <p>サポートされる文字列： </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- brand_title : メインブランド名  </li> <li>- brand_subtitle : 下に表示する 2 番目のテキスト</li> <li>- brand_title brand_tag_line : 下に表示する 3 番目のテキスト</li> <li>- brand_subtitle</li> <li>brand_browser_tab_label : ブラウザのタブの名前</li> <li>- brand_legal_left_label : 左側のハイパーリンク名</li> <li>- brand_legal_left_link : ユーザがサインインする前に知っておく必要がある法的情報への左側のハイパーリンク。</li> <li>- brand_legal_right_label : 右側のハイパーリンク名</li> <li>- brand_legal_right_link : ユーザがサインインする前に知っておく必要がある法的情報への右側のハイパーリンク。</li> </ul>	16 KB	<p>推奨される長さ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- brand_title : 最大 24 文字 (1 行に表示)、または最大 48 文字 (2 行に表示)。</li> <li>- brand_subtitle : 最大 24 文字 (1 行に表示)、または最大 48 文字 (2 行に表示)。</li> <li>- brand_tag_line : 最大 100 文字  </li> <li>- brand_browser_tab_label : 最大 64 文字</li> <li>- brand_legal_left_label : 英語の場合は最大 70 文字、その他の言語の場合は最大 50 文字</li> <li>- brand_legal_right_label : 英語の場合は最大 70 文字、その他の言語の場合は最大 50 文字</li> </ul>

リモート Web サーバでホストされるブランディングの場合、ブランディングファイルは Web サーバに保存されているアーカイブ (zip) ファイル内に保持されます。この resourceArchive の場所は API を介して設定されます。Web 管理ユーザインターフェイスを使用している場合は、[セクション 6.2.1](#) を参照してください (またはサードパーティ アプリケーションを使用している場合は、POST メソッドを介して /webBridgeProfiles ノードに設定するか、PUT を /webBridgeProfiles/<web bridge profile id> に設定します)。

Call Bridge は Web サーバからアーカイブファイルを取得し、それをサービス対象の Web Bridge にプッシュします。障害が発生した場合 (たとえば、設定された URI に到達できない場合)、アラームが Web 管理インターフェイスと API /system/alarms ノードに表示されますが、ユーザは引き続き Web アプリを使用してログインできます。

ローカルでホストされるブランディングの場合、圧縮されたブランディングファイルの場所と検索方法については、[第 5 章](#)を参照してください。

## 2.1 ファイルのプロパティと名前

ブランディングファイルは、zip ファイルなどのアーカイブファイルにまとめて配置する必要があります。圧縮ファイルの合計ファイルサイズは 1 MB 未満である必要があります、1 つのファイルの最大解凍サイズは 512 KB です。Web サーバブランディングの場合、zip ファイルは Call Bridge によって取得され、Web Bridge によって使用されて Web アプリをブランド化します。ローカルでホストされるブランディングの場合、zip ファイルは Web Bridge によってローカルで取得され、Web アプリをブランド化します。

---

**注：** ファイルを圧縮する場合、ブランディングファイルを含んでいるフォルダを圧縮しないでください。これを行うと、フォルダの追加レイヤーが作成されます (zip ファイル > フォルダ > ブランディングファイル)。代わりに、ブランディングファイルを強調表示し、右クリックして圧縮します (または、zip アプリケーションを開き、まとめて圧縮します)。

これにより、フォルダの追加レイヤーを作成せずに、ブランディングファイルを含む zip ファイルが作成されます (たとえば、zip ファイル > ブランディングファイル)。

---

たとえば、[図 3](#) では、webapp\_client.zip フォルダにブランディングファイルが含まれているため、リモートブランディング用に Web Bridge のカスタマイズを設定するときに、パス `http://<webserver address>/Branding/webapp_client.zip` を使用できます。

図 3 : Web アプリアセットの zip ファイルの作成

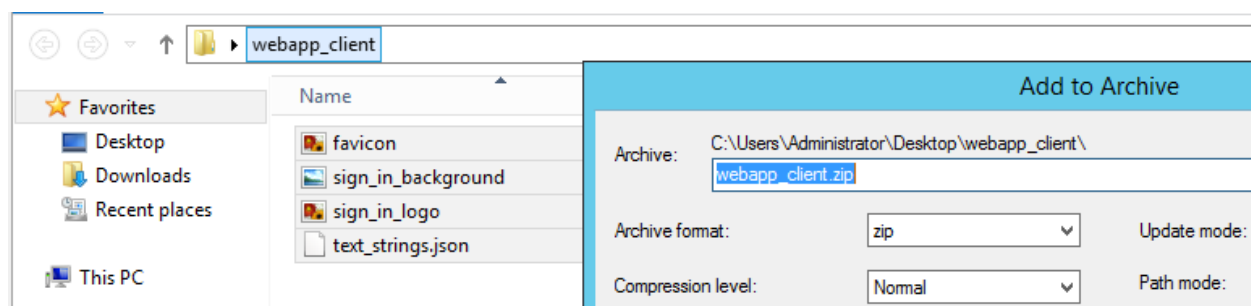


表 2 : Web アプリアセット

用途	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）
サインインページの背景画像	sign_in_background .jpg
サインインページのロゴ	sign_in_logo.png
ブラウザタブのラベルの横、およびブックマーク/ショートカットに表示されるアイコン	favicon.png
サインインロゴの下のテキストとブラウザタブのテキスト	text_strings.json

### 2.1.1 サインインページの背景画像、アイコン、ロゴ

背景画像は .jpg 形式でなければならず、ロゴファイルは .png 形式である必要があります。

ロゴでは、.png ファイルの透明度がサポートされ、推奨されています。

背景画像の最大サイズは、500kb のサイズ制限によって制限されます。最大 1920x1080 ピクセルの解像度の画像を使用することをお勧めしますが、最大サイズを超えない限り、他の解像度でも機能します。

ロゴ画像の推奨解像度は、幅 254 ピクセル、高さ 64 ピクセルです。これらの寸法は、サインインボックスの両端までのスペースを水平方向に埋めます。このファイルは 250 KB 未満のサイズである必要があります。

### 2.1.2 text\_strings.json ファイルのパラメータ

text\_strings.json ファイルは、独自の要件に合わせて上書きできるテキスト文字列の JSON 形式のファイルです。サポートされている文字列を表 3 に示します。

表 3 : text\_strings.json のパラメータ

パラメータ	説明
brand_title	メインブランド名
brand_subtitle	下の二次テキスト
brand_tag_line	下の三次テキスト
brand_browser_tab_label	ブラウザのタブの名前

図 4 の例に示すように、これらの各テキスト文字列をカスタマイズできます。

図 4 : text\_strings.json の内容の例

```
{
  "brand_title": "Cisco Meeting Server",
  "brand_subtitle": "web app",
  "brand_tag_line": "Join meetings anywhere, anytime",
  "brand_browser_tab_label": "Cisco Meeting Server Web app"
}
```

**注 :** text\_strings.json ファイルでは、まっすぐな引用符を使用する必要があります。システムがデフォルトでスマート引用符を使用している場合は、設定を変更する必要があります。

**注 :** ブランディングをテストする場合、ブラウザは実際には 1 回の更新では画像を再取得しないため、ページを 2 回更新する（または Google Chrome では CTRL+F5 を使用する）必要があります。

**注 :** ユーザポータルが無効になっている場合、パラメータ brand\_tag\_line で追加されたテキストは表示されません。



## 2.2 : カスタマイズ手順の概要 (Web サーバでホストされるブランディング)

これらの手順は、カスタマイズ手順の概要を示しています。詳細な手順については、[第 6 章](#)を参照してください。

1. 以下のファイルを含む zip アーカイブファイルを作成します。
  - favicon.png
  - sign\_in\_background .jpg
  - sign\_in\_logo.png
  - text\_strings.json
2. Web サーバで、カスタマイズファイル用のディレクトリを作成し、そこに zip ファイルを配置します。
3. API を使用して、zip ファイルが保持されている Web サーバで resourceArchive フィールドと URL を指定して webBridgeProfile ノードを作成し、webBridge ノードに適用します。  
(詳細については、[第 6 章](#)を参照してください。) Meeting Server はこれらの詳細を使用して、Web サーバから zip ファイルを取得します。

---

**注 :** Web Bridge ごとに 1 つのアーカイブファイルのみを適用できます。

---

**注 :** パスにポート値を指定すると、http の場合は :80、https の場合は :443 のデフォルトのポート値の代わりにこれが使用されます。ポート値を指定しなかった場合、デフォルト値が使用されます。ポート値を指定する場合は、ステップ 2 で使用した Web サーバがこのポートでリッスンしていることを確認してください。

---

## 3 通話のカスタマイズ

通話のカスタマイズには、次の 2 種類があります。

- IVR にダイヤルしたときに再生されるメッセージと表示される画像
- SIP (Lync を含む) 通話として Meeting Server のスペースに直接ダイヤルしたときに再生されるメッセージと表示される画像

### 3.1. IVR メッセージのカスタマイズ

IVR の呼び出し時に再生されるメッセージは、ivrBrandingProfile を使用して API を介してカスタマイズできます。このプロファイルは、システムレベルで、テナントごとに、または個々の IVR に適用できます。

#### 3.1.1 カスタマイズする IVR メッセージ

次の表に、録音に必要なすべての IVR メッセージと、録音に使用する関連ファイル名を示します。

表 4 : カスタマイズ用の IVR メッセージ

メッセージのテキスト	使用するファイル名 (ファイル名は大文字と小文字が区別されます)	再生されるとき
通話 ID を入力し、続いて「#」(シャープ) キーを入力してください。	ivr_id_entry.wav	特定のスペースに入るための IVR 経由のダイヤル
その通話 ID を認識できません。もう一度お試しください。	ivr_id_incorrect_try_again.wav	スペースに参加するために間違った通話 ID が入力されました
もう一度お試しください。これが最後の試みです。	ivr_id_incorrect_final_attempt.wav	スペースに参加するために間違った PIN/通話 ID が 2 回入力されました
その通話 ID を認識できません。Goodbye.	ivr_id_incorrect_goodbye.wav	スペースに参加するために間違った通話 ID が 3 回入力された
Cisco ミーティングへようこそ。	ivr_welcome.wav	スペースへの参加
接続できません。Goodbye.	ivr_timeout.wav	IVR 経由でダイヤルした後、通話 ID が入力されず、通話がタイムアウトする

### 3.1.2 IVR メッセージの録音形式

Audacity で作成され、1つのトラックとして PCM16、8、16、22.05、32、44.1 または 48 kHz のサンプルレート、16 ビット/サンプル、モノで保存された音声ファイルを使用します。各録音のファイルサイズは 400kB 未満である必要があります。

---

**注：**これらのプロンプトの最初または最後に、追加の無音期間を含める必要はありません。

---

### 3.1.3 IVR 背景画像のプロパティ

背景画像ファイルは .jpg 形式で、サイズは 500kB 未満で、最大幅 1920 ピクセル x 高さ 1200 ピクセルである必要があります。画像は、中央に配置され、拡大縮小され、縦横比を維持するために黒でパディングされます。プログレッシブ JPEG はサポートされていません。

表 5：カスタマイズ用の IVR 背景画像

画像使用	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）
IVR 背景画像	ivr_background.jpg

### 3.1.4 カスタマイズ手順の概要（Web サーバでホストされるブランディング）

次の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明します。詳細な手順については、第 3 章を参照してください。

---

**注：**Web サーバでホストされるブランディングを使用する場合は、Web サーバが WAV および JPEG ファイル拡張子（たとえば、audio/wav および image/jpeg MIME タイプ）について適切な MIME タイプで正しく設定されていることを確認してください。

---

1. Web サーバで、IVR カスタマイズファイル用のディレクトリを作成し、[セクション 3.1.1](#) および [セクション 3.1.3](#) にリストされているすべてのファイルをそのディレクトリに配置します。これらのファイルを圧縮しないでください

Cisco は、オーディオファイルとビデオファイルを含むアーカイブを作成しました。zip ファイルは、[この Web ページの \[カスタマイズ \(Customization\)\]](#) サブセクションからダウンロードできます。カスタムファイルとデフォルトファイルの混合が必要な場合は、ファイルを個別に使用できます。必要なファイルをディレクトリにコピーする必要があります。いずれかのファイルが欠落している場合、代替ファイルまたはデフォルトファイルが代わりに使用されることはありません。

2. API を使用して、カスタマイズされた ivr ファイルが保持されている Web サーバ上の resourceLocation フィールドと URL を指定する ivrBrandingProfile を作成します。（詳細については、セクションを参照してください）。Meeting Server はこれらの詳細を使用して、Web サーバからファイルを取得します。
3. この ivrBrandingProfile を使用して、次のように通話をカスタマイズします。
  - a. システムレベルで（つまり、グローバル システム プロファイルの一部として）
  - b. テナント単位で（テナント定義の一部として）
  - c. IVR ごとに（IVR 定義の一部として）

---

**注：**IVR ブランディングが複数のレベルで適用される場合、定義されている最も低いレベルの ivrBrandingProfile は、コールログで使用されるものです。ivrBrandingProfile のみシステムレベルで適用されるものは、単一のブランディングに使用されます。API リファレンスの「プロファイルの使用」セクションを参照してください。

---

## 3. 2 : SIP/Lync 通話メッセージのカスタマイズ

このセクションでは、SIP または Lync エンドポイントから Meeting Server スペースにダイヤルインするときのインコールエクスペリエンスをカスタマイズする方法について説明します。

Web サーバでホストされるブランディングの場合、ファイルは 1 回以上の通話で継続的に使用されている間、Call Bridge に保持されます。背景画像または音声メッセージを変更した場合、コールブランディングを利用しているコールが完了し、ファイルが再フェッチされるまで、新しい画像および音声ファイルは使用されません。

### 3.2.1 カスタマイズする音声メッセージ

次のリストは、録音に必要なすべての音声メッセージと、録音に使用する関連ファイル名です。

表 6 : カスタマイズ用の SIP 通話メッセージ

メッセージのテキスト	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）	音声通話の繰り返し	再生されるとき
Cisco ミーティングへようこそ	welcome.wav	いいえ	通話に参加する
お繋ぎできませんでした。Goodbye.	timeout.wav	いいえ	IVR 経由でダイヤルした後、通話 ID が入力されず、通話がタイムアウトする
こんにちは Cisco コールに招待されました。	call_outgoing_welcome.wav	いいえ	API で確認が True に設定されている場合、cospace に関連付けられていない通話から「call_」プロンプトが再生されます。
通話に参加するには、「1」を押してください。	call_join_confirmation.wav	いいえ	「こんにちは。Cisco コールに招待されています」というプロンプトが再生された後
通話に参加しました。	call_join.wav	いいえ	「1」を押して通話に参加した後
Cisco ミーティングに招待されています。	cospace_outgoing_welcome.wav	いいえ	API で確認が True に設定されている場合、「cospace_」プロンプトが、設定済みの会議（cospace 会議など）で再生されます。
会議に参加するには、「1」を押してください。	cospace_join_confirmation.wav	いいえ	「こんにちは。Cisco ミーティングに招待されています」というプロンプトが再生された後
会議に参加しました。	cospace_join.wav	いいえ	SIP エンドポイントからスペースの URI をダイヤルした後、または IVR をダイヤルしてスペースの通話 ID を入力した後（スペースに PIN がある場合、PIN の後に再生されます）

メッセージのテキスト	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）	音声通話の繰り返し	再生されるとき
会議に参加するには「1」を、電話を切るには「*」を押してください	cospace_blast_dial_join_confirmation.wav	いいえ	ブラストダイヤルコール中にプロンプトが再生される
会議から切断されました	disconnected.wav	いいえ	参加者が会議から切断されました。
会議はロックされています。許可されるまでお待ちください	locked_you_are_waiting.wav	いいえ	参加者は、会議に参加できるようにアクティブ化されるのを待っています（バージョン 2.9 以降）
この会議は録音されています。	meeting_recorded.wav	いいえ	録音の開始時、または録音中の通話への参加時
この会議はもう記録されていません	meeting_recording_ended.wav	いいえ	録音の終了
この会議はストリーミングされています	meeting_streamed.wav	いいえ	ストリーミング開始（バージョン 2.1 以降）
この会議はもうストリーミングされていません	meeting_streaming_ended.wav	いいえ	ストリーミングの停止（バージョン 2.1 以降）
会議は終了しました	meeting_ended.wav	いいえ	会議が終了した。
会議はロック解除されました	meeting_unlocked.wav	いいえ	会議の状態がロックからロック解除に変わります。これは、ロビー以外のすべての参加者に再生されます（バージョン 2.8 以降）。
会議はロックされています	meeting_locked.wav	いいえ	ミーティングの状態がロック解除からロックに変わります。これは、ロビー以外のすべての参加者に再生されます（バージョン 2.8 以降）。

メッセージのテキスト	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）	音声通話の繰り返し	再生されるとき
あなたが唯一の参加者です	only_participant.wav	はい	会議の参加者は 1 人だけです。
PIN の後に「#」（シャープ）キーを入力してください。	passcode_entry.wav	いいえ	スペースに入るには PIN が必要です
パスコードをお持ちの場合は、パスコードを入力してから「#」シャープを入力してください。それ以外の場合は、「#」シャープを押してください。	passcode_or_blank_required_entry.wav	いいえ	ホストがホストとしてスペースに入るにはパスコードが必要ですが、ゲストは #（シャープ）キーを使用するだけで済みます（バージョン 2.1 以降）。
パスコードをお持ちの場合は、パスコードを入力してから「#」シャープを入力してください。それ以外の場合はお待ちください。	passcode_or_blank_timeout_entry.wav	いいえ	ホストがホストとしてスペースに入るにはパスコードが必要ですが、ゲストは短いタイムアウト後に参加します（バージョン 2.1 以降）。

メッセージのテキスト	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）	音声通話の繰り返し	再生されるとき
その PIN は正しくありません。 もう一度お試しください。	passcode_incorrect_try_again.wav	いいえ	スペースに参加するために間違った PIN が入力されました
もう一度お試しください。これが最後の試みです。	passcode_incorrect_final_attempt.wav	いいえ	スペースに参加するために間違った PIN/通話 ID が 2 回入力されました
その PIN は正しくありません。 Goodbye.	passcode_incorrect_goodbye.wav	いいえ	スペースに参加するために間違った PIN が 3 回入力された後
会議には 1 人の参加者がいます。	total_participant_1.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 2 人の参加者がいます。	total_participant_2.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 3 人の参加者がいます。	total_participant_3.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 4 人の参加者がいます。	total_participant_4.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 5 人の参加者がいます。	total_participant_5.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 6 人の参加者がいます。	total_participant_6.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 7 人の参加者がいます。	total_participant_7.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）



メッセージのテキスト	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）	音声通話の繰り返し	再生されるとき
会議には 8 人の参加者がいます。	total_participant_8.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 9 人の参加者がいます。	total_participant_9.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 10 人の参加者がいます。	total_participant_10.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 11 人の参加者がいます。	total_participant_11.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 12 人の参加者がいます。	total_participant_12.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 13 人の参加者がいます。	total_participant_13.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 14 人の参加者がいます。	total_participant_14.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 15 人の参加者がいます。	total_participant_15.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 16 人の参加者がいます。	total_participant_16.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 17 人の参加者がいます。	total_participant_17.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）

メッセージのテキスト	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）	音声通話の繰り返し	再生されるとき
会議には 18 人の参加者がいます。	total_participant_18.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 19 人の参加者がいます。	total_participant_19.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 20 人の参加者がいます。	total_participant_20.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
会議には 21 人以上の参加者がいます。	total_participant_greater_than_20.wav	いいえ	会議に積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン 2.8 以降）
ホストの参加を待っています	waiting_for_host.wav	はい	会議の主催者が参加するのを待っている間

注：繰り返しのラベルが付いた音声プロンプトは、音声発信者に対して繰り返し再生されます。ビデオ通話の発信者に対しては 1 回だけ再生されます。繰り返される音声プロンプトが繰り返し聞こえるのを防ぐには、音声の後に無音時間（2 ～ 3 秒、または繰り返しの頻度を減らしたい場合はそれ以上）を録音します。

注：participant\_join.wav と participant\_leave.wav は、参加者がスペースに参加または退出したことを示すための参加トーンと退出トーンです。どちらのトーンもカスタマイズできません。

注：置換音声ファイルのフォーマットが無効な場合、何も再生されません。

### 3.2.2 音声メッセージの録音フォーマット

独自の音声メッセージを録音する予定がある場合は、各プロンプトを「WAV（Microsoft）署名付き 16 ビット PCM」として保存します。音声ファイルは、Audacity を使用して正しいフォーマットに変換できます。プロジェクトレートは、8000、16000、22050、32000、44100、48000 Hz のいずれかである必要があります。

別のアプリケーションを使用してファイルを作成する場合、出力は次のようにする必要があります。

- シングルトラック PCM フォーマット
- 16 ビット/サンプル
- モノ
- 8、16、22.05、32、44.1、または 48 kHz のサンプルレート

繰り返し録音の場合、ファイルサイズは 1000kB 未満にする必要があります。これは、16 kHz のサンプルレートを使用する場合、32 秒に十分です。他のすべての録音のファイルサイズは 400kB 未満にする必要があります

注：他のオーディオツールはテストしていません。使用すると問題が発生する可能性があります。

注：繰り返されないプロンプトの最初または最後に、追加の無音期間を含める必要はありません。繰り返されるものについては、無音を使用してインスタンス間にギャップを作成できます。

### 3.2.3 背景画像のプロパティ

背景ファイルは .jpg 形式で、サイズが 500kB 未満で、最大幅 1920 ピクセル、高さ 1200 ピクセルである必要があります。画像は、中央に配置され、拡大縮小され、縦横比を維持するために黒でパディングされます。プログレッシブ JPEG はサポートされていません。

表 7：カスタマイズ用の SIP 通話の背景画像

画像使用	使用するファイル名（ファイル名は大文字と小文字が区別されます）
通話ロゴ	background.jpg
PIN の入力が必要なときに画面を表示できます。	passcode_background.jpg
ホストがホストとしてスペースに入るために PIN が必要な場合に画面を表示できますが、ゲストは #（シャープ）キーを使用するだけで済みます（バージョン 2.1 以降）。	passcode_or_blank_required_background.jpg
ホストとして coSpace に入るために PIN が必要なときに画面を表示できますが、ゲストは短いタイムアウト後に参加します（バージョン 2.1 以降）。	passcode_or_blank_timeout_background.jpg
アクティブ化を待っているときに画面を表示できます（ホストの参加を待っているとき、会議をロック解除する必要があるときなど）。	deactivated_background.jpg

注：/callBrandingProfiles の動作と背景画像の選択は、/ivrBrandingProfiles には影響しません。

注：ローカルでホストされるブランディングでは、**background.jpg** のみが通話の背景画像と IVR 背景画像に使用されます。**passcode\_background.jpg**、**passcode\_or\_blank\_required\_background.jpg**、**passcode\_or\_blank\_timeou**  
**background.jpg**、**deactivated\_background.jpg**、および **ivr\_background.jpg** は無視されます。

### 3.2.4 カスタマイズ手順の概要 (Web サーバでホストされるブランディング)

次の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明します。詳細な手順の例については、第 4 章を参照してください。ローカルでホストされるブランディングを導入する手順については、[第 5 章](#)を参照してください。

---

**注：** Web サーバでホストされるブランディングを使用する場合は、Web サーバが WAV および JPEG ファイル拡張子（たとえば、audio/wav および image/jpeg MIME タイプ）について適切な MIME タイプで正しく設定されていることを確認してください。

---

1. Web サーバ上にカスタマイズファイル用のディレクトリを作成し、[セクション 3.2.1](#) および [セクション 3.2.3](#) にリストされているすべてのファイルをそのディレクトリに配置します。これらのファイルを圧縮しないでください。

Cisco は、オーディオファイルとビデオファイルを含むアーカイブを作成しました。zip ファイルは、[この Web ページの \[カスタマイズ \(Customization\)\]](#) サブセクションからダウンロードできます。カスタムファイルとデフォルトファイルの混合が必要な場合は、ファイルを個別に使用できます。必要なファイルをディレクトリにコピーする必要があります。いずれかのファイルが欠落している場合、代替ファイルまたはデフォルトファイルが代わりに使用されることはありません。

2. API を使用して、カスタマイズされたファイルが保持されている Web サーバ上の resourceLocation フィールドと URL を指定する callBrandingProfile を作成します。（詳細については、セクションを参照してください）。Meeting Server はこれらの詳細を使用して、Web サーバからファイルを取得します。

---

**注：** resourceLocation が指定されていない場合、デフォルトで Cisco ロゴが使用されます。

---

3. この callBrandingProfile を使用して、次のように SIP/Lync 通話をカスタマイズします。
  - a. システムレベルで（つまり、グローバル システム プロファイルの一部として）
  - b. テナント単位で（テナント定義の一部として）
  - c. スペースごとに（スペース定義の一部として）

---

**注：** コールブランディングが複数のレベルで適用される場合、定義されている最も低いレベルの callBrandingProfile は、コールログで使用されるものです。システムレベルで適用される callBrandingProfile のみが単一のブランディングに使用されます。API リファレンスの「プロファイルの使用」セクションを参照してください。

---

### 3.2.5 欠落しているファイルと無効なファイル

Web サーバから欠落しているファイルや無効な形式のファイルは、代替ファイルまたはデフォルトファイルが使用可能でない限り無視されます。

表 8 : 代替ファイルとデフォルトファイル

欠落しているファイルまたは無効なファイル	代替ファイルまたはデフォルトファイル
background.jpg	代替ファイルはなく、画面は黒いままで。
passcode_background.jpg	background.jpg *
passcode_or_blank_required_background.jpg	background.jpg *
passcode_or_blank_timeout_background.jpg	background.jpg *
deactivated_background.jpg	background.jpg *
welcome.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
timeout.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
call_join_confirmation.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
call_join.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
call_outgoing_welcome.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
cospace_join_confirmation.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
cospace_join.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
cospace_outgoing_welcome.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
disconnected.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
meeting_recorded.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
meeting_recording_ended.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
meeting_streamed.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
meeting_streaming_ended.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
meeting_ended.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
meeting_locked.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
meeting_unlocked.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
only_participant.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
participant_join.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
participant_leave.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
passcode_entry.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **

欠落しているファイルまたは無効なファイル	代替ファイルまたはデフォルトファイル
passcode_or_blank_required_entry.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
passcode_or_blank_timeout_entry.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
passcode_incorrect_try_again.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
passcode_incorrect_final_attempt.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
passcode_incorrect_goodbye.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_1.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_2.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_3.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_4.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_5.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_6.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_7.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_8.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_9.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_10.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_11.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_12.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_13.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_14.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_15.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_16.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_17.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_18.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_19.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_20.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
total_participant_greater_than_20.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **
waiting_for_host.wav	代替ファイルまたはデフォルトファイルはありません **

注：\* background.jpg の複数のコピーをロードする必要はありません。1 つのファイルが、欠落している画像を置き換えるために自動的に使用されます。

注：\*\* この音声ファイルが欠落しているか、フォーマットが無効な場合、何も再生されません。

## 4 招待状のテキストのカスタマイズ

招待状のテキストのカスタマイズは、テンプレートを使用していきます。

---

**注：**新しいリリースにアップグレードした場合、以前のリリースから新しいリリースへの既存のカスタム電子メール招待状テンプレートの移行パスは存在しないため、管理者はすべてのカスタム電子メール招待状テンプレートを再作成する必要があります。

---

### 4.1 Cisco Meeting Server Web アプリケーションのカスタム電子メール招待状

Meeting Server 2.9 で、新しい Cisco Meeting Server Web アプリケーションで使用するカスタム電子メール招待状が導入されました。

これにより、管理者はさまざまな電子メール招待状テンプレートを作成してアップロードできます。これらのテンプレートを使用して、Web アプリケーションのユーザは次のことを実行できます。

- 選択した言語で、他のユーザに将来のミーティングへの参加を求める電子メール招待状を送信します。
- 外部および社内の参加者など、さまざまな対象者に適した電子メール招待を送信。

Meeting Server 3.2 以降のバージョンでは、管理者は callBridges API を使用して電子メール招待状テキストを取得することもできます。API の使用の詳細については、[『API reference Guide』を参照してください](#)。

---

**注：**Web アプリケーションのカスタム電子メール招待状には、ローカルでホストされるブランディングを使用することを推奨します。ただし、より複雑な導入環境（マルチテナント環境など）で複数の言語を使用する場合は、リモートブランディング Web サーバを使用する必要があります。詳細については、39 ページの「Web Bridge 3 を使用した Web アプリのカスタマイズ手順の概要（Web サーバでホストされるブランディング）」を参照してください。

---

#### 4.1.1 Web アプリ招待状テンプレートの種類

Web アプリは、さまざまな言語とさまざまな対象者向けの招待状テンプレートのサポートを提供します。



#### 4.1.1.1 さまざまな言語の招待状テンプレート

Meeting Server 上に Web アプリ用のデフォルト言語の招待状メールテンプレートが 21 件追加されます。招待テンプレートには、次の形式が使用されます。

- Invitation\_template\_xx\_XX.txt

次の表に、サポートされている言語とその地域コードを示します。

言語	コード
デンマーク語	da_DK
ドイツ語	de_DE
英語 (イギリス)	en_GB
英語 (米国)	en_US
スペイン語 (スペイン)	es_ES
ソウミ (フィンランド語)	fi_FI
フランス語 (カナダ)	fr_CA
フランス語 (ヨーロッパ)	fr_FR
インドネシア語	id_ID
イタリア語	it_IT
日本語	JA_JP
韓国語	ko_KR
ノルウェー語	nb_NO
オランダ語	nl_NL
ポーランド語	pl_PL
ポルトガル語 (ブラジル)	pt_BR
ロシア語	ru_RU
スウェーデン語	sv_SE
トルコ語	tr_TR
中国語 (中国)	zh_CN
中国語 (台湾)	zh_TW



以前のように、このデフォルトのテンプレートを上書きする場合は、言語タグを付けた独自のテンプレート ファイルを作成し、ローカルにホストされているブランディングにアップロードします。Meeting Server は、これらの言語タグを解釈し、Web アプリケーションに適切なテンプレート オプションを返します。

Web アプリのユーザは、アップロードされている言語テンプレートのみを選択できます。アップロードされていない場合、Web アプリのユーザに対してドロップダウンリストに言語オプションは表示されません。

---

**注：**テンプレートファイルは、クラスタ内のすべての Meeting Server にアップロードする必要があります。

---

#### 4.1.1.2 さまざまな対象者向けの招待状テンプレート

ユーザは、社外および社内の参加者など、さまざまな対象者向けに異なる電子メール招待状を生成できます。そのためには、invitation\_template\_Internal.txt のように、命名規則に従った招待テンプレート ファイルを作成する必要があります。このファイルは、図 4 に示すように、電子メール招待状オプションに [内部 (Internal) ] として表示されます。

電子メール招待オプションの使用の詳細については、[『Cisco Meeting Server web app Important Information \(Cisco Meeting Server Web アプリケーション重要事項\)』](#) [英語] を参照してください。

## 4.2 招待状テンプレート テキスト ファイルの作成

[セクション 4](#) の情報を参照して、UTF-8 で招待状テンプレート テキスト ファイルを作成します。ファイルの種類に適した命名規則を使用して、ファイルに名前を付けます。次に例を示します。

- Invitation\_template.txt (Web アプリのドロップダウンリストに [デフォルト (Default) ] として表示されます)
- Invitation\_template\_xx\_XX.txt
- Invitation\_template\_Internal.txt (ファイル名の斜体部分が Web アプリのドロップダウンリストに表示されます。)

### 4.2.1 新しいシンタックスで作成されたカスタム電子メール招待状の内容

バージョン 3.1 では、カスタム電子メール招待状を作成するための新しいシンタックスが導入されています。

---

注：3.1 にアップグレードした場合、以前のリリースから 3.1 への既存のカスタム電子メール招待状テンプレートの移行パスが存在しないため、管理者はすべてのカスタム電子メール招待状テンプレートを再作成する必要があります。

---

#### ヘッダー

すべてのカスタム電子メールテンプレートは、「Subject:」で始まり、その後に本文テキストと区別するための空の行が続く必要があります。件名ヘッダーは、ヘッダーで指定されたテキストを電子メールの件名として設定する電子メールリンクを生成するために使用されます。ヘッダーに改行文字を含めることはできません。構文は次のとおりです。

**Subject:** <subject...> [空の行が続く]

#### フォーマット

新しいカスタム電子メール招待状のテンプレートシンタックスでは、変数、ループ、条件、含む、コールバック、およびコメント（必要に応じてネストし、組み合わせたもの）を使用できます。条件コード、ループなどの記述を可能にするエスケープシーケンス、つまり、改行エスケープシーケンス（3.1 以前と同じ）があります。# で始まる新しい行には、テンプレートのステートメントが導入されます。例：

```
#if name
```

**%name% #endif** に設定されているため、名前変数を使用できます

「{%」と「%}」を使用して、インラインステートメントを指定できます。例：

```
会議% if name %}: %name%{% endif %} に招待されています
```

また、「{# my comment #}」を使用して、テンプレートにコメントを追加することもできます。したがって、これらのエスケープシーケンス間のテキストはレンダリングされません。例：

```
こんにちは、{# このセクションはイントロです #}
```

## 変数

テンプレートには、変数と条件の両方を含めることができます。これにより、1つのテンプレートを複数のスペースで使用でき、また、招待状に一貫性を持たせることができます。

`%<var name>%` は変数の内容に置き換わります。

現在定義されている変数の詳細は以下の通りです。

表 9：招待テンプレートの変数

### 変数名の説明と例

name

これにより、`cospace` の名前に置き換えられます。コンテンツがあるかどうかを確認するには、コンテンツの長さ、または `null` でないかどうかを確認します。

例：

```
#if name
The cospace name is %name%
#endif
```

```
#if length(name)>0
The cospace name is %name%
#endif
```

---

### ウーリ

Web アプリ内の「join by uri」またはエンドポイントでダイヤルインするために使用できる `cospace uri`。長さによって、または `null` に設定した場合にチェックできます。

```
#if uri
uri : %uri%
#endif
```

```
#if length(uri) > 0
The uri is: %uri%
#endif
```

---

**変数名、説明、および例**

organizer name

これは、電子メール招待状の主催者の名前に置き換えられます。

```
#if organizername
Organizer: %organizername%
#endif
```

---

numeric\_id

これは、cospace. の callId です。通常、これは cospace の数値識別子です。長さによって、または null に設定した場合にチェックできます。

例：

```
#if numeric_id
The meeting id is %numeric_id%
#endif
```

```
#if length(numeric_id) > 0
The meeting id is %numeric_id%
#endif
```

**パスコード**

cospace に割り当てられたパスコード。

長さによって、または null に設定した場合にチェックできます。例：

```
#if passcode
The meeting requires a passcode: %passcode%
#endif #if
```

```
length(passcode) > 0
The meeting requires a passcode: %passcode%
#endif
```

---

## 変数名、説明、および例

`ivr_numbers`

これは、ラベルと番号を含むオブジェクトの配列です。

(これは、3.1 dial\_pstn のカスタム電子メールのテンプレートで使用された変数に取って代用されます。) 空の配列にすることができ、内部変数であるラベルと数値にアクセスするにはループオーバーする必要があります。null を確認することはできず、長さだけで確認できます。

- label: Meeting Server API を使用して登録する際、この IVR 番号に割り当てられたラベル。
- number: ダイヤルインする IVR 番号。

例 :

```
#if length(ivr_numbers) > 0
You can use the following dial-in number: %ivr_numbers.0.number%
%
#endif

#for ivr_number in ivr_numbers
%loop.index1% - %ivr_number.label%: %ivr_number.number%
#endif
```

---

**web\_bridge\_addresses**

これは、ラベル、アドレス、ハイパーリンクを含むオブジェクトの配列です。

(ハイパーリンクと 3.1 webbridge\_url のカスタム電子メールのテンプレートで使用される変数に取って代用されます。) 空にすることはできますが、null を確認することはできず、長さだけで確認できます。

- label: Meeting Server API を介して登録する際、この Web ブリッジアドレスに割り当てられたラベル。  
例 : Web アプリのアドレス
- address: この Web ブリッジ上の Web アプリにアクセスするために使用できる HTTPS アドレス。例 :  
`https://join.mydomain.com/`
- hyperlink: スペース内に `callId` が空でない (別名、会議 ID または `number_id`) と空ではないアドレスがある場合、パスワードを要求せずに特定の会議に直接参加するために使用できる固有のハイパーリンクが生成されます。

例 :

```
#if length(web_bridge_addresses) > 0
You can use the following web app address: % web_bridge_addresses.0.address%
#endif
```

```
#for wba in web_bridge_addresses
Label: %wba.label%
Address: %wba.address%
Hyperlink: %wba.hyperlink%
#endfor
```

---

## ループ (Loops)

ループは、「for」および「endfor」キーワードを使用して使用できます。例：

```
#for ivr_number in ivr_numbers
%loop.index1% - %ivr_number.label%: %ivr_number.number%
#endfor
```

ループ内の特殊変数は次のとおりです。

- loop.index (number) : 0 から始まるループの反復回数。
- loop.index1 (number) : 1 から始まるループの反復回数。
- loop.is\_first (boolean): 繰り返しが最初の繰り返しである場合。
- loop.is\_last (boolean) : 繰り返しが最後の繰り返しである場合。
- loop.parent.\* : ネストされたループでは、親ループ変数は loop.parent.<name of var> を使用して使用できます。例 : loop.parent.is\_first。

web\_bridge\_address や ivr\_number などのオブジェクトを反復処理することもできます。例：

```
#for ivr_number in ivr_numbers
{% for key, value in ivr_number -%}
%key%: %value%
{% endfor -%}
#endfor
```

## 条件 (Conditions)

条件は、一般的な「if」および「else」ステートメントをサポートし

ます。例：パスコードの長さに応じて異なるものをプリントします

```
{% if length(passcode) >= 3 %}...{% else if length(passcode) >= 10 %}...{% endif %}
```

特定のフィールドが web\_bridge\_address で設定されている場合にのみ、何かをプリントします

```
{% if web_bridge_address.hyperlink %}...{% endif %}
```

## 論理的な操作

「and」、「or」、および「not」を使用して、複雑な条件を生成できます。例：

```
{% if numeric_id and passcode %}...{% endif %}
{% if not name %}...{% endif %}
```

## 機能

テンプレート構文内にいくつかの関数が実装されます。詳細は以下のとおりです。文字

列の場合の上下の関数。例：

```
Join {% upper(name) %}
Join {% lower(name) %}
```

ループに便利な範囲関数。例：

```
{% for i in range(4) %} %loop.index1% {% endfor %}
```

{# 最初の 2 つの web\_bridge\_addresses のみが表示されます #}

```
{% for i in range(2) %} %at(web_bridge_addresses, i).address% {% endfor %}
```

リストの最初と最後の要素を取得します。例：

```
The first ivr_number: % first(ivr_numbers).number %
The last ivr_number: % last(ivr_numbers).number %
```

リストの並べ替え。例：

```
#for sort(ivr_numbers)
...
#endfor
```

{# Produces [1, 2, 3] #}

```
% sort([3,2,1]) %
```

数値を特定の精度に丸めます。例：

```
{# returns 1 #}
% round(1.4142135, 0) %
{# returns 1.4 #}
% round(1.4142135, 1) %
```

値が偶数か奇数か、または数値によって除算可能か確認します。例：

```
{# returns true #}
% odd(1) %
{# returns true #}
% even(2) %
{# returns true #}
% divisibleBy(42, 7) %
```

リストの最大値と最小値。例：

```
{# returns 3 #}
% max([1,2,3]) %
{# returns 1 #}
% min([1,2,3]) %
```

文字列を数値に変換します。例：

```
# if int(ivr_number) >= 123123
...
#endifif
```

変数が定義されていない場合、デフォルト値を設定します。そうでない場合、テンプレートのレンダリングは失敗し、結果は表示されません。例：

```
{% if default(has_valid_ivr_number, false) %}... {% endif %}
```

オブジェクトにキーが存在するかどうかを確認します。例：

```
{# returns false #}
% exists("pstn_dial_in") %
{# returns true #}
% existsIn("a", myobj) %
{# returns false #}
```

```
% existsIn("c", myobj) %
```

キーが特定のタイプか確認します。例：

```
{# returns true #}
% isArray(ivr_numbers) %
{# returns true #}
% isString(ivr_numbers.0.number) %
{# returns false #}
% isString(int(ivr_numbers.0.number)) %
```

実装されている型の確認は、`isArray`、`isBoolean`、`isFloat`、`isInteger`、`isNumber`、`isObject`、`isString`、



## 空白制御

空白はデフォルトで削除されます。より読みやすいテンプレートスタイルをサポートするため、ステートメントと式の両方の空白を手動で削除することもできます。最初または最後に負記号 (-) を追加すると、そのブロックの前または後の空白が削除されます。例：

```
Cospace name: % name -% .
{# Produces: Cospace name: blah. #}
```

ステートメントまたは式の後ろを削除すると、新しい行も削除されます。

### 4.2.2 招待状テンプレートの例

---

#### (注)

- 招待状テンプレートの .txt ファイルのサイズには、10,000 バイトの制限 \* があります。
- 招待テンプレートはすべて UTF-8 形式で指定する必要があります。
- 拡張 ASCII 文字はサポートされません。
- UTF-8 形式の招待状テンプレート .txt ファイルでは、(Windows で使用される) CRLF ではなく、UNIX の行末 (LF) を含める必要があります。UNIX の行末を省略すると、ファイルが機能しません。
- 言語別の .txt ファイルには、言語バリエーションに応じた適切な言語タグ (IANA Language Subtag Registry によって定義された) を指定する必要があります。この言語タグでは、2 個の小文字が言語コードを表し、2 個の大文字が地域コードを表します。たとえば、invitation\_template\_en\_GB.txt では、「en」は英語を表し、「GB」は地域 (英国) を表します。
- ファイル名の「invitation\_template」と「.txt」サフィックスの間の部分には、最大 32 文字の英数字と「\_」(アンダースコア) を使用できます。つまり、正規表現 `^[a-zA-Z_]{1,32}$` で表される任意の文字を使用できます。

---

**注：**\* 本書の発行時点では、Windows で Google Chrome から Web アプリケーションを使用しているとき、招待状テンプレートのファイルサイズが 1,491 バイトを超える場合、[招待 (Invite)] > [電子メールを送る (Send email)] または [電子メールを開く (Open email)] オプションは失敗します。これは Google Chrome ブラウザの既知の問題です。この問題の詳細については、以下を参照してください。 <https://bugs.chromium.org/p/chromium/issues/detail?id=1034497>

---

この問題が発生した場合、[電子メールを開く (Open email)] は灰色表示になりますが、[コピー (Copy)] を選択することで、好みの電子メールクライアントにミーティング参加情報を貼り付けることができます。

次の例を参考にして、プレースホルダに固有の値を使用してカスタマイズします。上記で定義されている適切なファイル名の形式を使用して保存します。

注：「Subject:」ヘッダーの後に空の行を続けて、本文テキストと区別する必要があります。

```
Subject: {% if name %}You are invited to join a meeting: %name%{% else %}You
are invited to join a meeting{% endif %}
```

```
#if numeric_id
```

```
Meeting ID: %numeric_id%
```

```
#if passcode
```

```
Meeting passcode: %passcode%
```

```
#endif
```

```
#endif
```

```
#for wba in sort(web_bridge_addresses)
```

```
#if wba.address or wba.hyperlink
```

```
#if loop.index == 0
```

```
コンピュータ、携帯電話、タブレット端末から参加 #endif
```

```
wba.label %} %wba.label%:{% endif %} {% if wba.hyperlink
}%wba.hyperlink%{% else %}%wba.address%{% endif %}
```

```
#endif
```

```
#endif
```

```
#for ivrn in sort(ivr_numbers)
```

```
#if ivrn.number
```

```
#if loop.index == 0
```

```
Join by phone
```

```
#endif
```

```
{% if ivrn.label %} %ivrn.label%:{% endif %} %ivrn.number%
```

```
#endif
```

```
#endif
```

```
#if uri
```

```
ビデオ会議システムまたはアプリケーションダイヤル %uri% から参
```

```
加
```

```
#endif
```

## 4.3 Web Bridge 3 を使用した Web アプリのカスタマイズ手順の概要 (Web サーバでホストされるブランディング)

Web アプリケーションのカスタム電子メール招待状には、ローカルでホストされるブランディングを使用することを推奨します。詳細については、「[ローカルでホストされるブランディングの導入](#)」を参照してください。

coSpace ごとに異なるセットのカスタム招待状テンプレートが必要な場合にのみ、リモート Web サーバでホストされるブランディングを使用する必要があります。たとえば、複数のテナントがあり、それらに独自のカスタム招待テンプレートを持たせたい場合などです。

次の手順は、リモート Web サーバでホストされるブランディングのカスタマイズ手順の概要を示しています。

---

注：招待状テンプレートはすべて UTF-8 形式で指定する必要があります。拡張 ASCII 文字はサポートされません。UTF-8 形式の招待状テンプレート .txt ファイルでは、(Windows で使用される) CRLF ではなく、UNIX の行末 (LF) を含める必要があります。UNIX の行末を省略すると、ファイルが機能しません。

---

- クエリ文字列を正しく処理して、要求された正しい招待状テンプレートを確実に返せるサーバサイドスクリプトを作成して、リモート Web サーバを設定します。  
これを行う方法の詳細については、次の例を参照してください。  
<https://github.com/ciscocms/example-http-invites>。(Meeting Server はこの方法を使用して、既存の展開との下位互換性を確保します。)
- API を使用して、テンプレートが保持されている Web サーバ上の invitationTemplate フィールドと URL を指定する callBrandingProfile を作成します。サーバサイドスクリプトへの完全パスを指定する必要があります (例: `http://192.0.2.0/branding/invitation.cgi`)。Meeting Server はこれらの詳細を使用して、Web サーバからテンプレートを取得します。  
  
Web アプリを使用する場合、Web アプリは、要求された言語または文字列 (例: "Internal") を Web アプリのドロップダウンリストで選択されたオプションに応じて、URL にクエリ文字列として追加します。次に例を示します。  
- `http://192.0.2.0/branding/invitation.cgi?language=es_ES`  
または  
- `http://192.0.2.0/branding/invitation.cgi?language=Internal`
- この callBrandingProfile を使用して、次のように招待状をカスタマイズします。
  - システムレベルで (つまり、グローバル システム プロファイルの一部として)
  - テナント単位で (テナント定義の一部として)
  - スペースごとに (スペース定義の一部として)

## 5 ローカルでホストされるブランディングの導入

ローカルでホストされるブランディングファイルを使用している場合、次の手順でカスタマイズ手順の概要を説明します。

---

**注：** Web サーバの使用からローカルでホストされるようにファイルを変更する場合は、次の手順に従う前に[セクション 7.1](#) のガイダンスに従ってください。

---

**注：** ローカルでホストされるブランディングの使用に関する制限については、「[ローカルでホストされるブランディングの使用の制限](#)」を参照してください。

---

### 5.1 Web アプリのカスタマイズ

Web アプリのブランディングファイルは、アーカイブ (zip) ファイル内に保持されます。Web サーバの使用からローカルでホストされるようにファイルを変更する場合は、次の手順に従う前に[セクション 7.1](#) のガイダンスに従ってください。

次の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明します。詳細な手順については、カスタマイズガイドラインを参照してください。

---

**注：** 次の手順のコマンドは、コンソール/端末環境 (コマンドプロンプトまたは端末) 用であり、WinSCP などの SFTP クライアントには対応していません。

---

1. 以下のファイルを含む zip アーカイブファイルを作成します。

- favicon.png
- sign\_in\_background .jpg
- sign\_in\_logo.png
- text\_strings.json

---

**注：** ファイルを圧縮する場合、ブランディングファイルを含んでいるフォルダを圧縮しないでください。これを行うと、フォルダの追加レイヤーが作成されます (zip ファイル > フォルダ > ブランディングファイル)。代わりに、ブランディングファイルを強調表示し、右クリックして圧縮します (または、zip アプリケーションを開き、まとめて圧縮します)。これにより、フォルダの追加レイヤーを作成せずに、ブランディングファイルを含む zip ファイルが作成されます (たとえば、zip ファイル > ブランディングファイル)。

---

---

**注：**この zip ファイルは web\_branding .zip という名前にする必要があります。別のファイル名を指定することはできません。

---

2. この zip アーカイブをローカルにホストする予定の Web Bridge を有効化した Meeting Server ごとに、次の手順を実行します。
  - a. SFTP クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
  - b. MMP の admin ユーザのログイン情報を使用してログインします。
  - c. zip ファイル web\_branding .zip をアップロードします。例：  
**Web\_branding .zip を入力します。**
  - d. SSH クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
  - e. MMP の admin ユーザのログイン情報を使用してログインします。
  - f. Web Bridge を再起動します。

```
webbridge restart
```

新しいブランディングは再起動後に選択できます。Web Bridge は、ファイルを渡すのに Call Bridge に依存するのではなく、WebRTC アプリケーション用にローカルにホストされるブランディングファイルを取得します。

## 5.2 IVR メッセージ、SIP/Lync コールメッセージ、および招待状テキストのカスタマイズ

IVR メッセージ、SIP/Lync コールメッセージ、および招待状テキストをローカルでホストするには、Call Bridge ブランディング zip ファイルを作成する必要があります。

次の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明します。詳細な手順については、[『カスタマイズガイドライン』](#)を参照してください。

1. コールブランディングの zip ファイルを作成します。このファイルは、正しく処理されるように call\_branding .zip という名前にする必要があります。
  - a. 『カスタマイズガイドライン』の第 3 章に記載されているファイルを含んだ 1 つのフォルダを作成します。これらは、Web サーバが展開される場合に使用されるファイルと同じです。

---

注：ローカルでホストされるブランディングでは、`background.jpg` のみが通話の背景画像と IVR 背景画像に使用されます。`passcode_background.jpg`、`passcode_or_blank_required_background.jpg`、`passcode_or_blank_timeoutt_background.jpg`、`deactivated_background.jpg`、および `ivr_background.jpg` は無視されます。

---

- b. 『ガイドライン』の第4章で説明されているように、招待状テキストを含んでいるファイル `invitation_template*.txt` をフォルダに追加します。

---

注：このコールブランディング zip ファイルでは、Web サーバで別のファイル名を使用している場合でも、ファイル名 `invitation_template*.txt` を使用する必要があります。

---

- c. フォルダ内のファイルを圧縮します。すべてのファイルは zip ファイルの最上位レベルである必要があります (zip ファイルにネストされたフォルダがない)、ファイル名は `call_branding.zip` である必要があります。
2. すべての Call Bridge に IVR、コール、および招待状のカスタマイズをインストールします。Meeting Server ごとに、次のようにします。
    - a. SFTP クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
    - b. MMP の admin ユーザのログイン情報を使用してログインします。
    - c. zip ファイル `call_branding.zip` をアップロードします。例：  
**Call\_branding.zip** を入力します。
    - d. SSH クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
    - e. MMP の admin ユーザのログイン情報を使用してログインします。
    - f. Call Bridge を再起動します。

```
callbridge restart
```

新しいブランディングは再起動後に選択できます。

## 5.3 カスタマイズされた `nvitation_template*.txt` のテスト

### Web アプリの場合

Meeting Server は、リモートサーバから取得した招待状テンプレートを 2 分間キャッシュしてから、再度要求します。したがって、Web アプリで招待状ポップアップを閉じると、招待状が再度要求され、2 分間のキャッシュ期間の後、要求された言語ごとに再生成されます。

## 5.4 ローカルでホストされているブランディングファイルの削除

ローカルブランディングファイルをホストしている各 Meeting Server で、次の手順を実行します。

1. SFTP クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
2. MMP の admin ユーザのログイン情報を使用してログインします。
3. ローカルでホストされているブランディングファイルを Web Bridge から削除します。

**RM web\_branding.zip**

4. ローカルでホストされているブランディングファイルを Call Bridge から削除します。

**RM call\_branding.zip**

5. SSH クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
6. MMP の admin ユーザのログイン情報を使用してログインします。
7. Web Bridge を再起動します。

**webbridge3 restart**

8. Call Bridge を再起動します。

**callbridge restart**

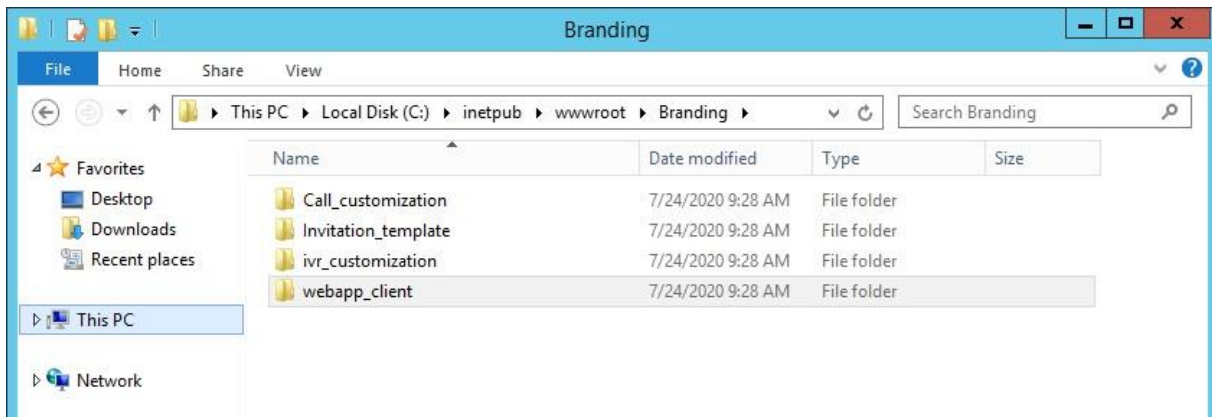


## 6 API を使用したリモートブランディングの導入

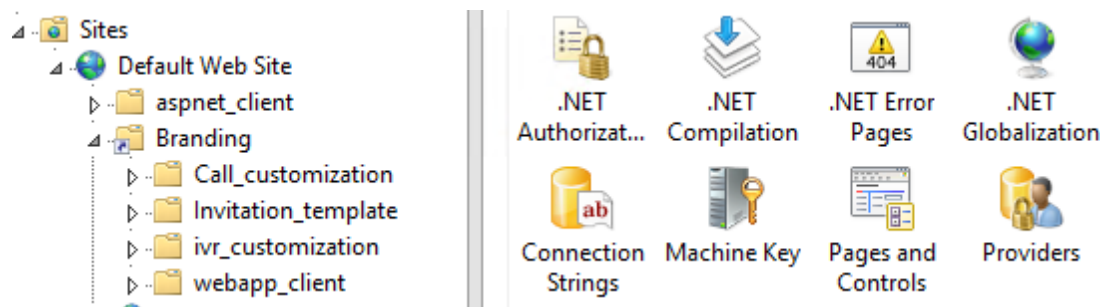
このセクションでは、Web サーバでホストされるブランディングシナリオで Microsoft Windows を使用したコールブランディングの例をステップバイステップで説明します。ここでは、Microsoft Internet Information Services (IIS) Manager が、コールブランディング ファイルをホストする Web サーバに最新のパッチと共にインストールされていることを前提としています。

### 6.1 Web サーバの設定

1. Web サーバで、既定の IIS マネージャーの場所 `c:\inetpub\wwwroot` の下に、ブランディング/カスタムファイルを保持するディレクトリ構造を作成します。以下の例は、`Call_customization`、`Invitation_template`、`ivr_customization`、`webapp_client` の 4 つのサブフォルダを持つ Branding フォルダを示しています。



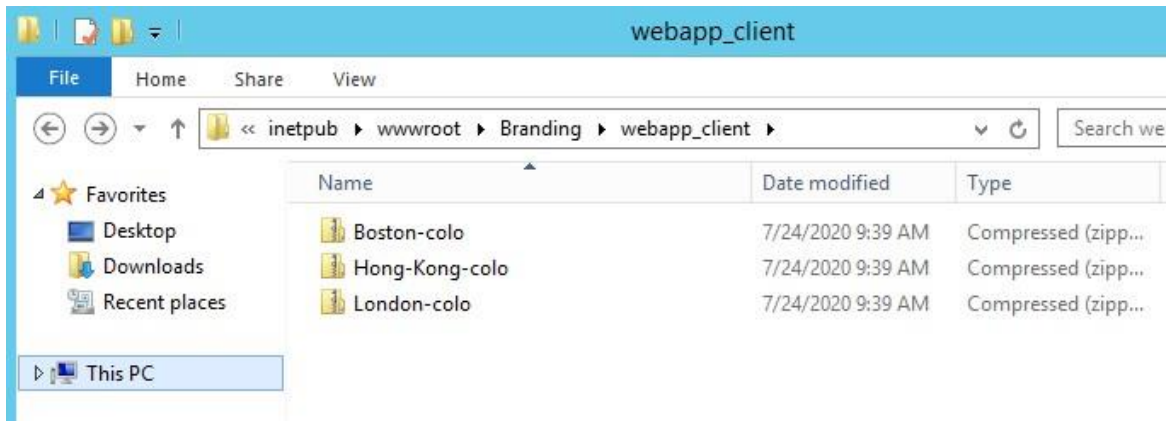
2. IIS マネージャーを開き、[既定のWebサイト] を展開します。新しく作成されたフォルダがリスト内に表示されます。



注：新しく作成したフォルダがリストに表示されない場合、またはフォルダが標準の IIS マネージャーの場所の外にある場合は、新しい仮想ディレクトリを作成する必要があります。IIS 内で、[既定のWebサイト] に移動し、右クリックして [仮想ディレクトリ] を選択します。このフォルダの [エイリアス] を指定し、ファイルが存在する物理パスを参照します。

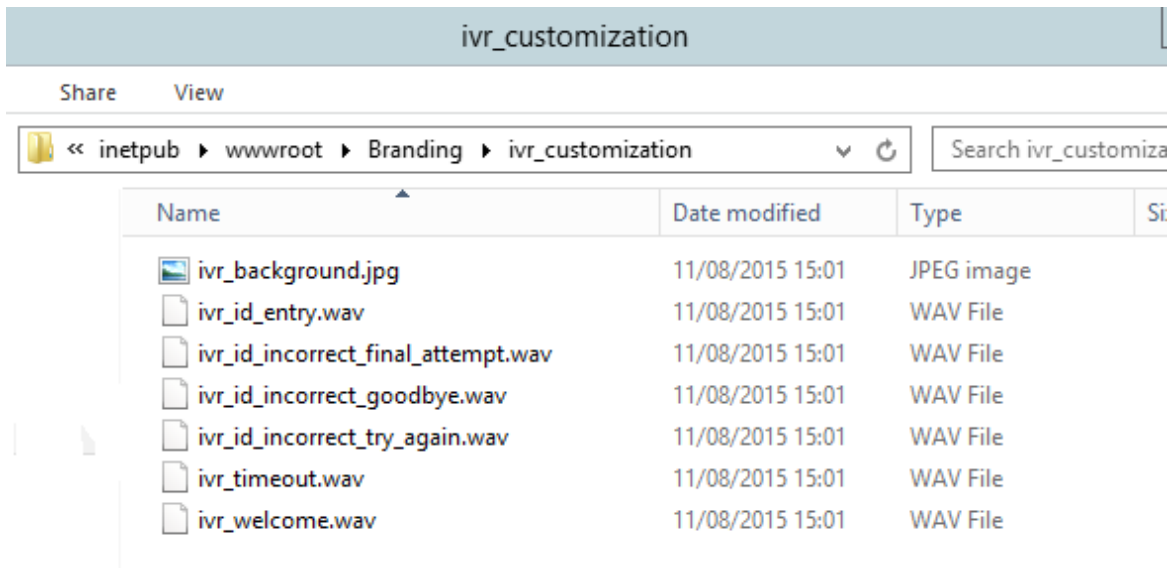


1. 目的のブランディングのレベルに合わせて、すべてのファイルをフォルダに配置します。
  - a. Web アプリのカスタマイズの場合、これらは[セクション 2.2](#) の zip ファイルになります。



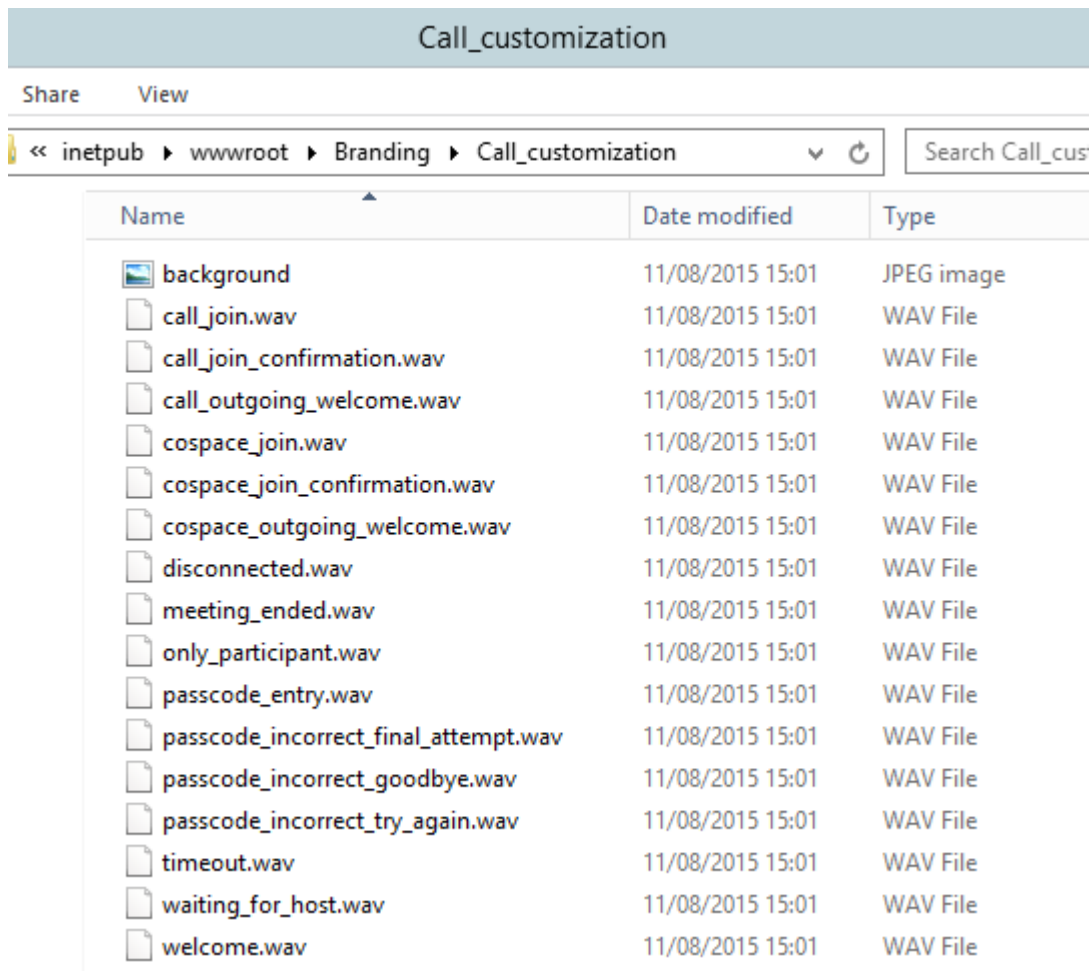
注：上記のスクリーンショットでは、webapp\_client カスタマイズファイルが場所ごとに圧縮されています。

- b. IVR カスタマイズの場合、これらは[セクション 3.1](#) のファイルになります。



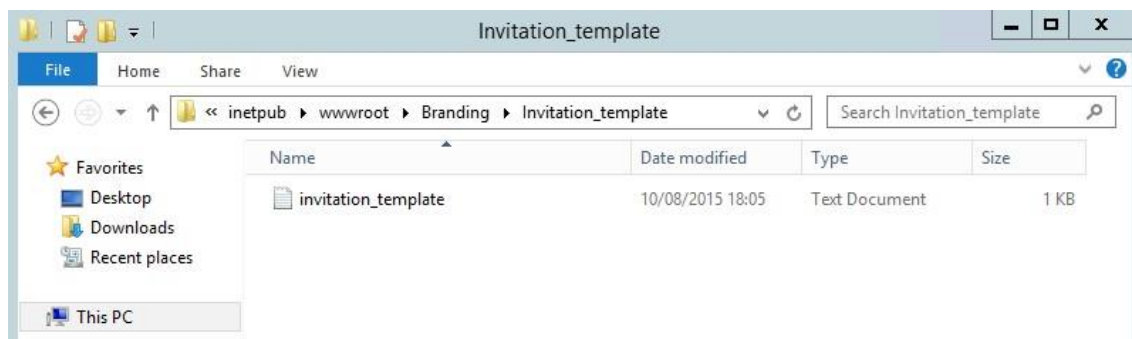
注：ivr カスタマイズ用のファイルは一緒に圧縮されていません。

- c. 通話のカスタマイズの場合、これらは[セクション 3](#) のファイルになります。



注：通話のカスタマイズ用のファイルは一緒に圧縮されていません。

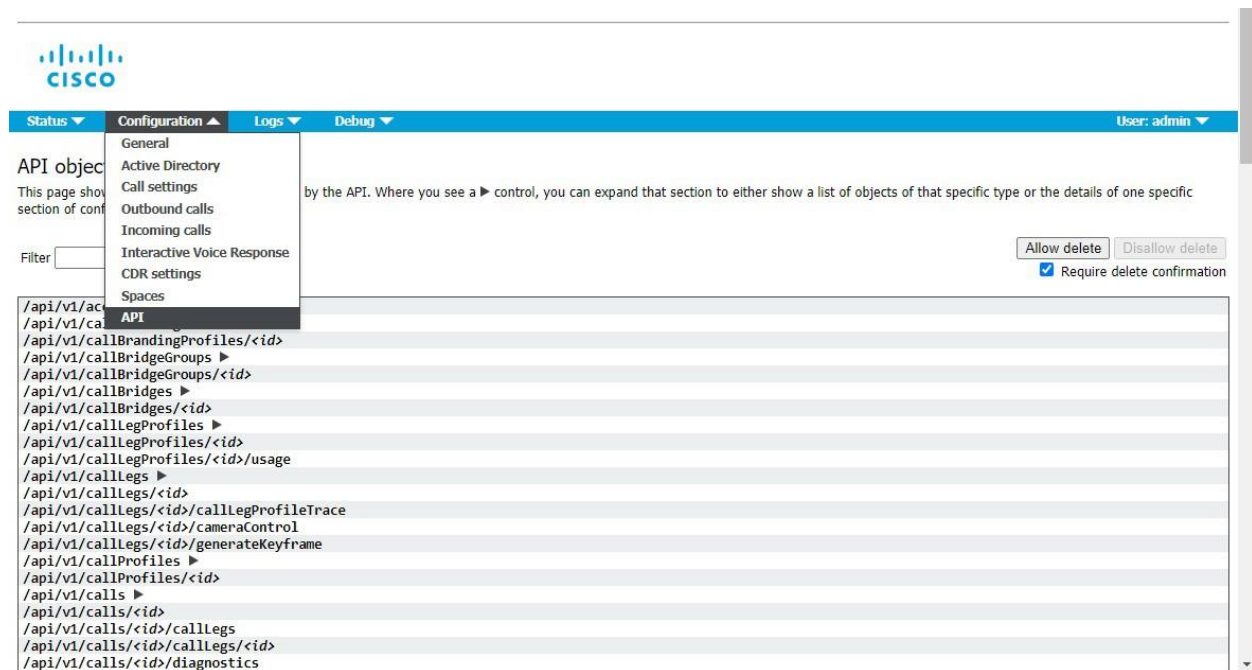
- d. 招待状テンプレートは、第 4 章で作成したファイルになります。



## 6.2 ブランディングのための API の使用

この章の残りの部分では、Meeting Server Web 管理インターフェイス経由でアクセスされる API を使用して、Web アプリ、IVR、SIP コールをブランド化し、カスタム招待乗を適用する例を示します。API は、API メソッドやサードパーティ製アプリケーションではなく、Meeting Server Web 管理インターフェイスを使用してアクセスできます。Web 管理インターフェイスにログインした後、[設定 (Configuration)] タブに移動し、プルダウンリストから [API] を選択します。図 5 を参照してください。

図 5 : Meeting Server Web インターフェイスを介した API へのアクセス



API の使用の詳細については、[『API reference Guide』](#)を参照してください。

### 6.2.1 Web アプリへのブランディングの適用

Web アプリのブランディングファイルは、webBridgeProfile に適用され、次に webBridge ノードに関連付けられます。テナントごとに異なる Web アプリのブランディングが必要な場合は、ブランド化される Web アプリごとに Web Bridge を設定する必要があります。

---

**注：**ブランディングサーバが HTTPS 経由でホストされている場合、Meeting Server とブランディングサーバの証明書は、有効な CA または同じ CA によって署名されている必要があります。ブランディングサーバの証明書が有効な CA によって署名されていない場合、Meeting Server はブランディングサーバとの通信に失敗することがあります。

---

1 クラスタ内のサーバの 1 つの Web 管理インターフェイスを使用するには、[設定 (Configuration) ] > [API] を選択します。

- a. a. API オブジェクトのリストから、/api/v1/webBridgeProfiles の後ろにある [▶] をタップします。
- b. b. [新規作成 (Create new) ] をクリックします。
- c. c. resourceArchive パラメータと、Web サーバで Web アプリのブランディングファイルが保持されている URL を入力します。

この時点で、resourceArchive を適用できます。

- d. d. 個々の Web Bridge レベルで：API オブジェクトのリストから、/api/v1/webBridges の後にある [▶] をタップし、パラメータを下にスクロールして webBridgeProfile を表示し、[選択 (Choose) ] をクリックします。表示されるダイアログから、使用する webBridgeProfile のオブジェクト ID を選択し、Web 管理ページに戻って [作成 (Create) ] をクリックします。

**または**

- e. e. すべての Web ブリッジにグローバルに：API オブジェクトのリストから、/api/v1/system/profiles の後の [▶] をタップし、[表示または編集 (View or edit) ] をクリックし、パラメータを下にスクロールして webBridgeProfile を表示し、[選択 (Choose) ] をクリックします。表示されるダイアログから、使用する webBridgeProfile のオブジェクト ID を選択し、Web 管理ページに戻って [変更 (Modify) ] をクリックします。
- f. f. Web アプリのブランディングファイルを Web Bridge への Web アプリコールに使用する必要があります。テストコールを行って、ブランディングファイルが適用されていることを確認します。

## 6.2.2 SIP 通話やカスタム招待状にブランディングを適用する

SIP 通話とカスタマイズされた招待状テンプレートのブランディングファイルは、callBrandingProfiles ノードに適用されます。

---

**注：**ブランディングサーバが HTTPS 経由でホストされている場合、Meeting Server とブランディングサーバの証明書は、有効な CA または同じ CA によって署名されている必要があります。ブランディングサーバの証明書が有効な CA によって署名されていない場合、Meeting Server はブランディングサーバとの通信に失敗することがあります。

---

1. クラスタ内のサーバの 1 つの Web 管理インターフェイスを使用するには、[設定 (Configuration) ] > [API] を選択します。
  - a. API オブジェクトのリストから、/api/v1/callBridges の後ろにある [▶] をタップします。
  - b. **[新規作成 (Create new) ]** をクリックします。
  - c. パラメータを下にスクロールして resourceLocation と InvitationTemplate を表示し、Web サーバでブランディングファイルが保持されている URL を入力します。InvitationTemplate URL のみのファイルへのパスを含む完全なファイル名を指定してください (例: [https://192.0.2.23/branding/invitation\\_template.txt](https://192.0.2.23/branding/invitation_template.txt))。http を使用することもできます。

---

**注：**/Branding の下にサブフォルダーを作成した場合は、各サブフォルダーの URL を callBrandingProfiles に POST する必要があります。

---

- d. **[作成 (Create) ]** をクリックします。
2. この新しく作成されたオブジェクト ID を、必要なブランディングレベルに割り当てます。
    - ・ システムレベルで (つまり、グローバル システム プロファイルの一部として)
    - ・ テナント単位で (テナント定義の一部として)
    - ・ スペースごとに (スペース定義の一部として)

以下の例では、以前に作成したテナントにブランディングを適用します。

- a. API オブジェクトのリストから、/api/v1/tenant/ の後ろにある [▶] をタップします。
  - b. 個々のテナントのオブジェクト ID をクリックします。
  - c. パラメータを callBrandingProfile まで下にスクロールし、[選択 (Choose) ] をクリックします。このテナントに使用する callBrandingProfile のオブジェクト ID を選択します。
  - d. [変更 (Modify) ] をクリックします。
3. Call Branding ファイルをそのテナントの呼び出しに使用する必要があります。SIP エンドポイントからテナント用に設定されたスペースに電話をかけます。通話に背景画像が表示され、音声プロンプトが聞こえることを確認します。

### 6.2.3 IVR へのブランディングの適用

IVR のブランディングファイルは、ivrBrandingProfiles ノードに適用されます。1 つの Meeting Server で設定できる Web Bridge は 1 つだけです。テナントごとに異なる IVR ブランディングが必要な場合は、ブランド化される IVR プロファイルごとに Web Bridge を設定する必要があります。

---

**注：**ブランディングサーバが HTTPS 経由でホストされている場合、Meeting Server とブランディングサーバの証明書は、有効な CA または同じ CA によって署名されている必要があります。ブランディングサーバの証明書が有効な CA によって署名されていない場合、Meeting Server はブランディングサーバとの通信に失敗することがあります。

---

1. クラスタ内のサーバの 1 つの Web 管理インターフェイスを使用するには、[設定 (Configuration) ] > [API] を選択します。
  - a. API オブジェクトのリストから、/api/v1/ivrBrandingProfiles の後ろにある [▶] をタップします。
  - b. [新規作成 (Create new) ] をクリックします。
  - c. Web サーバで ivr ブランディングファイルが保持されている resourceLocation URL を入力します。

---

注：/Branding の下にサブフォルダを作成した場合は、ivr サブフォルダの URL を ivrBrandingProfiles に POST する必要があります。

---

- d. [作成 (Create) ] をクリックします。
2. この新しく作成されたオブジェクト ID を、必要なブランディングレベルに割り当てます。
    - システムレベルで（つまり、グローバル システム プロファイルの一部として）
    - ivr ごとに（ivr 定義の一部として）。
    - ivrBrandingProfile フィールドに <ivrBrandingProfile id> を入力します。

以下の例は、以前に作成した ivr に ivr ブランディングを適用します。

- a. API オブジェクトのリストから、/api/v1/ivrs/ の後ろにある [▶] をタップします。
  - b. 個々の ivr のオブジェクト ID をクリックします。
  - c. パラメータを ivrBrandingProfile まで下にスクロールし、[選択 (Choose) ] をクリックします。この ivr に使用する ivrBrandingProfile のオブジェクト ID を選択します。
  - d. [変更 (Modify) ] をクリックします。
3. 指定した ivr へのコールに IVR ブランディングファイルを使用する必要があります。ivr へのテストコールを行って、ブランディング ivr ファイルが適用されていることを確認します。



## 7 ブランディング方法の切り替え

ある方法から別の方法に変更できますが、2つの方法を混在させないことをお勧めします。詳細については、以下の手順を参照してください。

### 7.1 Web サーバ（またはデフォルトの）ブランディングからローカルでホストされるブランディングへの変更

Web サーバ（またはデフォルト）のブランディングからローカルにホストされているブランディングに変更する場合は、次の推奨事項に従ってください。

- すべての Call Bridge に対して次のことを確認します。
  - IVR メッセージの `resourcelocation` パラメータが設定されていません。PUT メソッドを使用して、`/ivrBrandingProfile/<ivr branding profile id>` で `resourceLocation` パラメータを空白として設定します。
  - コールメッセージの `resourcelocation` パラメータが設定されていません。PUT メソッドを使用して、`/callBrandingProfile/<call branding profile id>` で `resourceLocation` パラメータを空白として設定します。
  - コールメッセージの `invitationTemplate` パラメータが設定されていません。PUT メソッドを使用して、`/callBrandingProfile/<call branding profile id>` で `invitationTemplate` パラメータを空白として設定します。
- Web Bridge が設定されているすべての Call Bridge について、`resourceArchive` フィールドがその設定で設定されていないことを確認します。PUT メソッドを使用して、API オブジェクト `/webBridges/<web bridge id>` で `resourceArchive` パラメータを空白として設定します。
- スクリプトとコールレグプロファイルの設定で Web サーバ URL の使用を停止します。
- 前述のように、すべての Call Bridge で `call_branding.zip` ファイルを設定します。
- 前述のように、すべての Web Bridge で `web_branding.zip` ファイルを設定します。



## 7.2 ローカルホストから Web サーバブランディングへの変更

ローカルホストから Web サーバブランディングに変更する場合は、次の推奨事項に従ってください。

- 前述のように、すべての Call Bridge からローカルでホストされている call\_branding.zip ファイルを削除します。
- 前述のように、すべての Web Bridge からローカルでホストされている web\_branding.zip ファイルを削除します。
- 「カスタマイズガイドライン」に記載されているように、すべてのスクリプトと設定を <http://mywebserver/...> を使用するように変更します。

## 7.3 ローカルホストと Web サーバカスタマイズの混在

ブランディング zip ファイルを Meeting Server にインストールするが、Web サーバも展開して、ブランディング リソース ファイルの処理に使用する場合は、次の点に注意してください。

IVR、コール、および招待状のカスタマイズの場合：

- リモート Web サーバを使用したカスタマイズは、ローカルでホストされるファイルを上書きします。
- API フィールドを空白または未設定のままにすると、ローカルでホストされるファイルが使用されます。

Cisco Meeting Server Web アプリのカスタマイズの場合：

- リモート Web サーバを使用したカスタマイズは、ローカルでホストされるファイルを上書きします。
- クラスタ環境では、Web アプリのユーザに一貫したエクスペリエンスを提供するために、クラスタ内のすべてのサーバに同じ招待状テンプレートをアップロードする必要があります。

## 7.4 ローカルでホストされるブランディングの使用の制限

- 1つの背景イメージファイル、Background.jpgのみを、ローカルでホストされているブランディングで使用し、他のイメージファイルは無視されます。
- たとえば、パスコードの入力や IVR など、状況に応じて異なる画像の背景が必要な場合、唯一の方法は、「カスタマイズガイドライン」で説明されているように、Web サーバをカスタマイズに使用することです。
- 複数セットのブランディングファイルを使用する場合でも、外部 Web サーバを使用する必要があります。
- ファイルのサイズが大きすぎる場合、欠落している場合、または無効な場合は、Web サーバと同等の方法で扱われ、使用されません。この場合、次の動作が発生します。
  - Web アプリのユーザには、デフォルトのファイルである invitation\_template\_en\_US.txt と invitation\_template\_es\_ES.txt が提供されます。ローカルでホストされているブランディングにそれらがなく、一般的な invitation\_template.txt がない場合、これらのデフォルトファイルが使用されます。

---

**注：** Web Bridge 3 ごとに取得できるブランドは 1 つだけであり、Web Bridge 3 のローカルとリモートでホストされるブランディングに違いはありません。

---

## 8 SIP コールの標準画面レイアウトにロゴを追加する

バージョン 3.6 から、会議で参加者の画面にロゴを表示するように Cisco Meeting Server を設定できます。管理者は、ロゴファイルをアップロードして、標準レイアウトの特定の位置に表示されるように設定できます。

これはライセンスが必要な機能であり、アクティブなカスタマイズライセンスが Meeting Server に存在する場合に機能します。この機能は、SIP エンドポイントでのみサポートされています。

このセクションでは、ロゴファイルのサイズ要件と、ロゴファイルをアップロードし、Meeting Server Web 管理インターフェイス経由でアクセスされる API を使用して設定する手順について説明します。

標準レイアウトにロゴを追加するには：

- ログ画像ファイルをレイアウトでレンダリングするには、最大解像度が 256\*256 で、png 形式である必要があります。
- 画面スペースを最適に使用するため、推奨される画像サイズは 128\*128 です。
- 展開にクラスタ環境がある場合は、ロゴファイルをクラスタ内のすべての Call Bridge ノードにアップロードする必要があります。
- ログは、標準レイアウトで受信者の画面の次の位置に配置できます。
  - 左上
  - 左下
  - 右上
  - 右下

次の手順に従って、ロゴ画像ファイルを Meeting Server にアップロードします。

- SFTP クライアントを使用して、IP アドレスを使用して MMP にログインします。ログイン資格情報は、MMP 管理者アカウントに設定された資格情報になります。Windows を使用している場合は、WinSCP ツールを使用することをお勧めします。

---

**(注)**

- ファイル転送に WinSCP を使用している場合、転送設定オプションが「テキスト」ではなく「バイナリ」であることを確認してください。誤った設定を使用すると、転送されたファイルが元のファイルよりもわずかに小さくなり、アップグレードが正常に行われなくなります。
- MMP のインターフェイスの IP アドレスは、iface a MMP コマンドで確認できます。
- SFTP サーバは、標準ポート 22 で実行します。
- ロゴ画像の .png ファイルをサーバ/仮想サーバにコピーします。

---

**注：**これはライセンスが必要な機能であり、アクティブなカスタマイズライセンスが Meeting Server に存在する場合に機能します。

---

次の手順に従って、API を使用してロゴ画像ファイルを設定します。

- Web 管理インターフェイスを使用して、[設定 (Configuration) ] > [API] を選択します。
- API オブジェクトのリストから、/api/v1/callProfiles の後の [▶] をタップしてパラメータを設定するか、ミーティング中にパラメータを変更する場合は /api/v1/calls の後の [▶] をタップします。
- [新規作成 (Create New) ] または [変更 (Modify) ] をクリックします。
- 次のパラメータを設定します。

パラメータ	タイプ/値	説明
logoFileName	文字列	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前。 ファイル名は 128 文字に制限されています。
logoPosition	leftTop  leftBottom  rightTop  rightBottom	受信者の画面でロゴを表示する必要がある位置。すべてのレベルで設定を解除した場合、ロゴの位置はデフォルトで leftTop になります。
logoRetain	True False	このパラメータは表示されますが、現在は機能していません。 ロゴの追加は現在、標準レイアウトでサポートされています。 このパラメータは、機能がカスタムレイアウトでサポートされている場合に機能します。  標準からカスタムレイアウトに、またはその逆に切り替えるとき、ロゴを保持する必要があるかどうかを決定します。  次の値を使用できます。  True : 標準レイアウトからカスタムレイアウトへの切り替え時にロゴを保持します。  False : 標準レイアウトからカスタムレイアウトに切り替え時にロゴを保持しません。

- [作成/変更 (Create/Modify) ] をクリックします。
- 作成した callProfile を coSpace にマップします。

ロゴファイルがアップロードされ、受信者の画面に表示されるように設定されました。

## Cisco の法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。ソフトウェアライセンスまたは限定保証書が見つからない場合は、CISCO の代理店に連絡してコピーを入手してください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的への適合性、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハード コピーおよび複製されたソフト コピーは、すべて管理対象外と見なされます。最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト [www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

## Cisco の商標

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、

[https://www.cisco.com/c/ja\\_jp/about/legal/trademarks.html](https://www.cisco.com/c/ja_jp/about/legal/trademarks.html) をご覧ください。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1721R)

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。  
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。